

# 第1章

(仮称)マンガの聖地としまミュージアム  
ム整備に向けた基本的な考え方

# 1 事業の背景

## (1) かつてトキワ荘があったまち

### ①現代マンガの原点となった「トキワ荘」

昭和 27 年 12 月 6 日、豊島区椎名町五丁目 2253 番地（現・南長崎三丁目）で、賃貸アパート「トキワ荘」の上棟式が行われました。

昭和 28 年のはじめ、このトキワ荘に、児童マンガ雑誌『漫画少年』を発行していた学童社でマンガ家の世話をしていた加藤宏泰が入居し、加藤の紹介により、仕事場兼住居を探していた手塚治虫が入居しました。その後、寺田ヒロオが入居して以降、『漫画少年』の投稿欄で才能を見いだされた若手マンガ家たちがトキワ荘 2 階に入居し、切磋琢磨しながらマンガを描きました。

昭和 28 年（1953 年）から昭和 37 年（1962 年）の 10 年間にここで暮らしたマンガ家は、手塚治虫、寺田ヒロオ、藤子不二雄<sup>Ⓐ</sup>、藤子・F・不二雄、鈴木伸一、森安なおや、石ノ森章太郎、赤塚不二夫、水野英子、よこたとくお、山内ジョージの計 11 名にのぼります。さらに、永田竹丸、長谷邦夫、つのだじろう、横山孝雄、園山俊二ら、数多くのマンガ家が入居して通ってきました。昭和 37 年（1962 年）3 月、マンガ家として最後の住人となっていた山内ジョージが退去するまで、マンガ家を目指す人々の憧れの地でした。

その後、昭和 57 年 12 月、トキワ荘は老朽化により解体され、新たなアパートとして生まれ変わりましたが、それも平成 12 年頃解体され、現在、跡地には出版社の社屋が建っています。



平成 27 年度「トキワ荘等に関する基礎調査」で作成したトキワ荘復元模型（1/50）

### ②「トキワ荘」があった「椎名町」

トキワ荘にマンガ家が暮らしていた時代には、トキワ荘を含む現在の南長崎一丁目～六丁目と目白地域の一部を含む一体は「椎名町」と呼ばれていました。

トキワ荘のマンガ家たちは、青春時代の日々を過ごしたトキワ荘周辺のまちの様子を、後にマンガに描くなどしています。買い物をした商店や通った銭湯等、様々なエピソードがのこるスポットが、まちなかに点在しています。

昭和 39 年（1964 年）から新住居表示への切り替えが行われ、昭和 41 年（1966 年）、住居表示としての「椎名町」の地名は姿を消しました。

## (2) トキワ荘のマンガ文化を発信・後世に継承する取り組み

かつてトキワ荘があったまち豊島区南長崎地域では、地元住民と区の連携による、トキワ荘のマンガ文化を発信・後世に継承する取り組みが行われてきました。

### ①地域との連携：南長崎マンガランド事業

南長崎地域のマンガによるまちづくりの活動団体である「としま南長崎トキワ荘協働プロジェクト協議会」は、南長崎地域の町会・商店会等の地域住民を中心とした有志のメンバーで構成され、豊島区との協働により、トキワ荘のマンガ文化を活用したまちづくりを進めています。

平成20年に記念碑「トキワ荘のヒーローたち」の設置に向けた実行委員会が組織され、この頃から地域の活動が活発化しています。記念碑の設置後も、地域住民が様々なマンガによるまちづくりの活動を行いながら、平成23年には、「トキワ荘通り協働プロジェクト協議会」が設置され、さらに平成28年には、南長崎地域全体でマンガによるまちづくりを推進する「としま南長崎トキワ荘協働プロジェクト協議会」が設置されました。

豊島区と地域との連携により、記念碑「トキワ荘のヒーローたち」（平成21年設置）を始めとして、「トキワ荘跡地モニュメント」（平成24年設置）、「豊島区トキワ荘通りお休み処」（平成25年設置）、「トキワ荘ゆかりの地解説板」（平成25～26年設置）、「マンガの聖地としま！モニュメント」（平成28年設置（4基））等の様々な、モニュメントや施設が整備されてきました。平成27年度からは「南長崎マンガランド事業」と位置づけ、「(仮称)マンガの聖地としまミュージアム（トキワ荘復元施設）」の整備事業や「マンガの聖地としま！モニュメント」の設置事業が進められ、トキワ荘のマンガ文化を活用したまちづくりは加速し続けています。また、ハード面の整備だけでなく、イベントの開催や散策マップの作成等、様々な活動が進められてきました。

としま南長崎トキワ荘協働プロジェクト協議会は、区と連携しながらも、主体的にマンガによるまちづくりの活動に取り組んでおり、マンガ家のたまごを支援する「紫雲荘・活用プロジェクト」やトキワ荘通りに夢の虹を描く「夢の虹イベント」、フリーペーパー「マンガ・南長崎・トキワ荘」の発行等、様々な活動を展開しています。

### ②記念碑、モニュメント等の設置

- ・記念碑「トキワ荘のヒーローたち」  
平成21年(2009年)、豊島区立南長崎花咲公園に設置。



- ・トキワ荘跡地モニュメント  
平成24年(2012年)、トキワ荘跡地の出版社敷地内に設置。

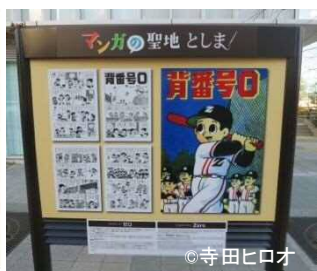


・マンガの聖地としま！モニュメント

平成 27 年度より、南長崎地域全体に豊島区ゆかりのマンガ家作品のキャラクターモニュメントを設置する事業を展開。



©手塚プロダクション



©寺田ヒロオ



©森安なおや



©鈴木伸一

③豊島区トキワ荘通りお休み処の開設

豊島区では、平成 25 年 12 月、トキワ荘があったまちの案内・散策拠点施設として、「豊島区トキワ荘通りお休み処」を開設しました。

所在地：南長崎二丁目 3 番 2 号

構造：木造 2 階建

面積：76 m<sup>2</sup> (1 階 41.65 m<sup>2</sup>、2 階 34.35 m<sup>2</sup>)

1 F 休憩・物販・マンガ閲覧スペース



閲覧コーナー：トキワ荘関連の図書を配架



関連グッズ：トキワ荘関連グッズを販売



マンガ家のサイン色紙、寄せ書き、関連施設等のチラシを配置

2 F 展示スペース



寺田ヒロオの部屋を再現：リーダー的存在だった、テラさんこと寺田ヒロオの部屋を再現



関連資料コーナー：寺田ヒロオの腕時計、「エデン」のマッチ、「松葉」のどんぶりなどを展示



企画展示スペース：様々な企画に対応

#### ④豊島区立郷土資料館での展覧会

豊島区立郷土資料館では、トキワ荘に集ったマンガ家たちをテーマにした特別展を、これまで3回開催してきました。

<p>昭和 61 年(1986 年) 11 月 18 日～12 月 26 日</p> <p>トキワ荘のヒーローたち 漫画にかけた青春</p>	<p>トキワ荘に居住した手塚治虫をはじめとするマンガ家集団の青春時代を紹介。</p>
<p>平成 10 年(1998 年)11 月 12 日～ 平成 11 年(1999 年)1 月 24 日</p> <p>トキワ荘のヒーローたち・2 漫画にかけた青春</p>	<p>トキワ荘出身の漫画家一手塚治虫、寺田ヒロオ、藤子・F・不二雄、石ノ森章太郎—を中心にその作品を紹介し、戦後のマンガ文化をふりかえる。また、トキワ荘時代の彼らの暮らしぶりとおわせて、戦後復興期の 1950 年代の豊島区の様子を紹介。</p>
<p>平成 21 年(2009 年) 10 月 24 日～12 月 6 日</p> <p>トキワ荘のヒーローたち マンガにかけた青春</p>	<p>区立南長崎花咲公園に記念碑が設置されたのを記念して、若きマンガ家たちの青春と戦後のマンガ文化を、当時の作品や資料をもとに紹介。</p>

#### ⑤調査・研究

豊島区では、トキワ荘に関する調査を実施し、これまで以下の2冊の報告書を発行しています。

<p>『トキワ荘マンガ文化の活用に関する基礎的調査』 平成 23 年(2011 年)</p>	<p>区に蓄積されたトキワ荘に関する情報を集約し、トキワ荘から生まれたマンガ文化の継承・活用における可能性や課題について考察検討を行う。また、全国のマンガやアニメでまちおこしを行っている自治体の動向を調査し、その結果を参考に、今後の展開案を検討する。</p> <p>第1部 トキワ荘の概要 第2部 トキワ荘の文化継承・活用に関する現状と課題 第3部 マンガ・アニメを活用したまちづくりの事例 第4部 トキワ荘の文化継承・活用に係る考察と今後の展開</p>
<p>『トキワ荘等に関する基礎調査』 平成 28 年(2016 年)</p>	<p>トキワ荘の復元を視野に入れた情報収集を行うため、トキワ荘の建築物や周辺環境等、トキワ荘に居住した 11 名のマンガ家がトキワ荘で過ごしていた時代を再現するために必要な下記項目に関して調査を行う。</p> <p>A. 建物の構造、間取り、屋根・壁・床・建具等の仕様 B. 11 名のマンガ家の居室・共用部の什器・調度品等 C. 敷地との配置関係、植栽、外構等 D. 建物に関わるトキワ荘住民の活動 E. 昭和 28～37 年の椎名町地区の様子 F. その他、トキワ荘の復元に寄与する情報</p>



### (3) 新たな社会の潮流

近年、日本のマンガ・アニメに対する評価・期待が高まりつつあります。

#### ①マンガ・アニメへの期待

平成 13 年に公布された「文化芸術振興基本法」において、国が振興を図るべき施策として、既存の芸術に加え、「メディア芸術の振興」が明記されました。対象となるメディア芸術の分野に、マンガ及びアニメーションが含まれています。

さらに、「文化芸術振興基本法」の規定に基づき、政府は、「文化芸術の振興に関する基本的な方針」を定め、文化芸術振興に関する施策の方向性を示しています。現在、第 4 次方針（平成 27 年度～平成 32 年度）にもとづき、「文化芸術立国」の実現に向けた施策が展開されています。

特に、メディア芸術に関する方針として、以下のような項目が挙げられます。

- ・重点戦略として、「世界的フェスティバルとしてのメディア芸術祭の開催」、「マンガ・アニメを含む文化資産の収集・保存・デジタルアーカイブ化の促進、メディア芸術についての情報拠点の構築・発信」を明記。
- ・基本的施策として、「メディア芸術の振興」を挙げ、人材育成の取り組みの推進を明記。また、「国際交流の推進」に向け、「海外に向けたメディア芸術の発信」を明記。

さらに、政府は、平成 22 年頃から「クール・ジャパン戦略」への取り組みを推進しています。クール・ジャパン戦略の狙いは、アニメ、ドラマ、音楽等のコンテンツや「衣」「食」「住」をはじめ、日本の文化やライフスタイルの魅力を付加価値に変え、新興国等の旺盛な海外需要を獲得し、日本の経済成長（企業の活躍・雇用創出）につなげることにあり、マンガやアニメを含むコンテンツ産業の振興は、重要な要素と位置付けられています。

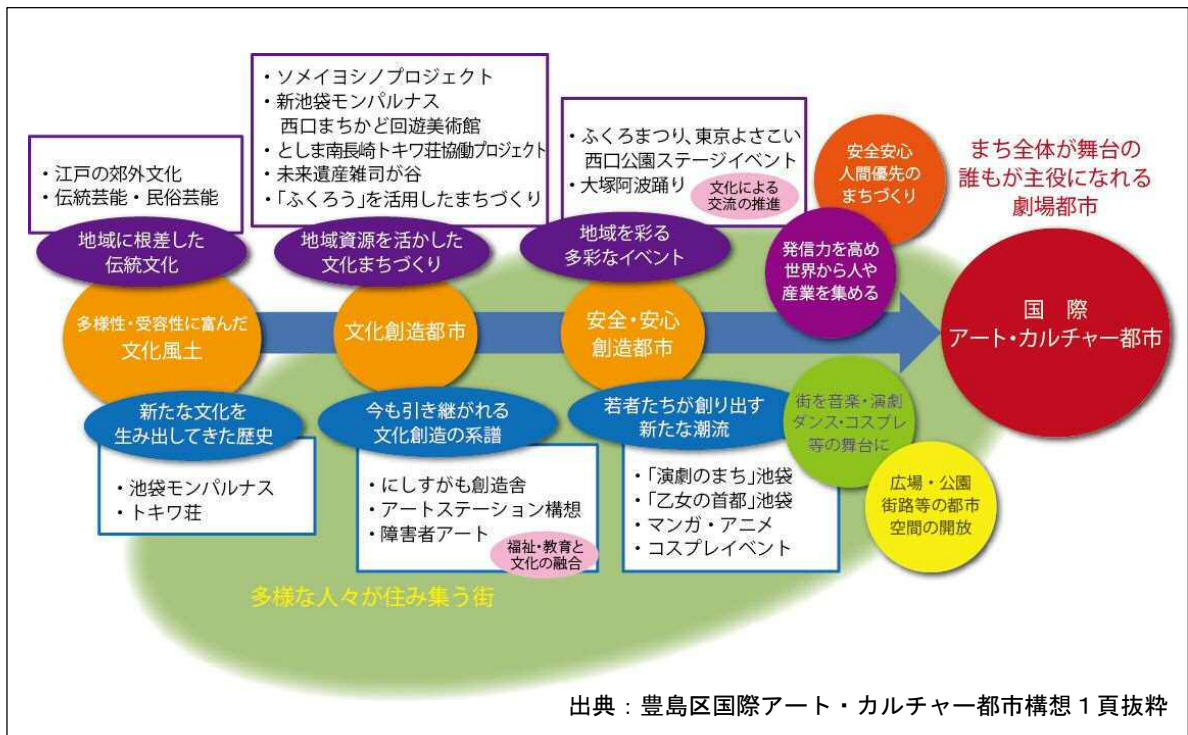
#### ②2020 年東京オリンピック・パラリンピック

平成 32 年（2020 年）に開催される東京オリンピック・パラリンピックには、国内からの来訪者に加え、訪日外国人の増加が期待されています。政府は、平成 28 年（2016 年）に発表した「明日の日本を支える観光ビジョン」において、平成 32 年の訪日外国人観光客数の目標を現在の 2 倍となる 4 千万人と設定しました。

さらに、東京 2020 大会では、スポーツの祭典とともに、文化の祭典として史上最大規模の文化プログラムに取り組むことが求められており、平成 28 年（2016 年）9 月から平成 32 年（2020 年）までの 4 年間をカルチュラル・オリンピアドと位置付け、官民を挙げた多様な取り組みが行われています。

### ③豊島区国際アート・カルチャー都市構想

現在、豊島区では、「豊島区国際アート・カルチャー都市構想」にもとづき、多様な文化資源を有する豊島区の強みを最大限に活かしながら、安全・安心な人間優先の都市空間の整備を進め、表現の舞台として開放していくことで、世界からアート・カルチャーの魅力で人や産業を惹きつける都市づくりを推進しています。その中で、マンガ・アニメによるまちづくり、アニメをはじめサブカルチャーの集積地である池袋とトキワ荘ゆかりの地南長崎地域との連携等をめざした取り組みを進めています。



さらに、平成 29 年 3 月、「東京アニメアワードフェスティバル」が池袋を中心に開催されます。これは、一般社団法人日本動画協会が主催し、東京都が共催する国際アニメーション映画祭で、新たな人材の発掘・育成、アニメーション文化と産業の振興に寄与することを目的としています。『東京がアニメーションのハブになる』を合言葉に、高いクオリティとオリジナリティに富む世界中の作品を東京で上映し、世界中のアニメーションを愛する人々との交流を図り、クリエイターや観客に刺激と感動を提供し、そしてその感動や刺激を糧に、アニメーションの新たな波を東京から世界へ発信するものです。

豊島区では、2020 年に向けた国際アート・カルチャー戦略の新展開と位置付け、旧庁舎跡地整備や本事業を含めた継続的な事業展開により、アニメの聖地となることを目指しています。

## 2 事業の基本的な考え方

### (1) 事業の目的

トキワ荘ゆかりの地である南長崎地域では、これまで、豊島区と地域とが一体となって、トキワ荘をはじめとするマンガによるまちづくりを進めており、平成 27 年度には、「南長崎マンガランド事業」として、トキワ荘復元を視野に入れた「トキワ荘等に関する基礎調査」及び「キャラクターモニュメント」の設置を行ってきました。

マンガ文化を世界に向けて発信する拠点施設として、トキワ荘を復元したマンガ・アニメミュージアムをトキワ荘のあった南長崎地域に整備することにより、既存の「トキワ荘通りお休み処」やモニュメント等との回遊性を向上させ、南長崎マンガランド事業の展開をさらに進めていきます。

### (2) 施設のコンセプト

#### マンガの聖地としまの象徴となる施設

トキワ荘は、現代マンガの巨匠が住み集い、若き青春の日々を過ごした伝説のアパートです。「トキワ荘ゆかりの地」として、「マンガの聖地としま」を象徴する当時のトキワ荘を彷彿とさせる拠点施設を整備します。

#### マンガからアニメへ

現代アニメの原点はマンガであり、そのマンガの原点はトキワ荘にあります。マンガとアニメをつなげる施設を整備します。

#### マンガ・アニメ文化を世界へ発信

東京オリンピック・パラリンピック開催時には多くの外国人観光客が来日する予定です。東京オリンピック・パラリンピック開催前の 2019 年度末までにオープンし、「クール・ジャパン」といわれるマンガ・アニメ文化を世界に向けて発信します。

#### 地域と一体となった施設

トキワ荘ゆかりの地である南長崎地域が一体となって、南長崎地域全体がマンガを肌で感じられる取り組みを進めていくための地域から愛される拠点施設となります。

#### アミューズメント性のある施設

豊島区ゆかりのマンガ家作品を中心に、子どもからお年寄りまで幅広い年代層が楽しむことができ、何度でも楽しめ訪れたいくなるアミューズメント施設とします。



### (3) 基本理念・基本方針

前述した「事業の目的」「施設のコンセプト」を実現するため、(仮称)マンガの聖地としまミュージアムの基本理念と基本方針を、以下のように設定します。

#### [基本理念]

##### マンガの聖地としまの象徴として、 地域へ、世界へ、マンガ・アニメ文化を発信します

トキワ荘は、現代マンガの巨匠が住み集い、若き青春の日々を過ごした伝説のアパートです。トキワ荘という場の持つ意義や文化的価値を再評価するとともに、現在の人々に当時の想いやエネルギーを伝えることにより、マンガ・アニメを核とする地域文化の継承・発展を目指します。

#### [基本方針]

- ①トキワ荘をテーマに、子どもからお年寄りまで幅広い年代の方々が楽しみ何度でも訪れたいくなるよう、アミューズメント性を重視した事業活動を展開します。
- ②現地を訪れる国内外の来訪者に対して、マンガ・アニメ文化を発信します。
- ③マンガ・アニメ文化を感じられるまちづくりを進める南長崎地域全域における拠点施設として、地域と一体となった活動を展開します。
- ④マンガの原点であるトキワ荘をスタートに、現代のアニメにつながる豊島区全体の回遊を促進します。

